

公共施設の着実な整備・更新とコロナ禍からの心身の回復を

武蔵野市の2022年(令和4年度)予算は、705億860万円と初めて700億円台となり、本格的な公共施設の大更新時代に入りました。昭和30～40年代以降都市化が進んだ自治体では、公共施設の計画的な保守・整備や更新(=建て替え)が必要となっています。

武蔵野市の公共施設は、全体のおよそ半分を学校施設が占めており、市立一中、五中の建て替えに続き、市内16校(大野田小、千川小を除く)の建て替えが順次進められる予定です。

また、中央地域では、保健センターの大規模改修・増築工事、高齢者総合センターの大規模改修、障害者福祉センターの建て替え等計画が具体化しています。総合体育館は外回りの工事を行っていますが、今後、プール棟の建て替え等が検討されています。

市民の暮らしを支える公共サービスを途切れさせることなく、複雑化する市民要望に応じてさらに充実させていくことが求められます。

2年余りにわたる新型コロナ感染症の影響で、人と人との関係が希薄になり、言葉にならない不安を感じている方も多いのではないのでしょうか。特に、移動や外出に支援が必要な方の中には、「自粛」が高じて、生活の意欲や体力が低下するなど、フレイル(=虚弱)状態が心配されます。

在宅介護・地域包括支援センターなどが中心となって、アウトリーチ型のきめ細やかな支援を充実するよう働きかけを続けていきます。



1月20日に文教委員会が行った「子どもの人権について」学習会 講師は喜多明人早稲田大学名誉教授(写真左端) 中央は司会の内山さと子

パークタウンカフェのお知らせ



新緑が美しい季節になってきました。

新型コロナ感染症の拡大で、なかなかお目にかかることが少なくなりましたが、感染症対策をとりつつ、日頃の暮らしのご相談やご意見を直接伺う機会を設けました。

限られた時間ではありますが、どうぞお気軽にお越しください。

なお、当日ご都合がつかない方は、電話・メール等でお知らせください。

日時：4月23日(土) 午後 1:30～3:00

場所：パークタウン団地B7号棟集会所

お問い合わせ：080-3758-1057 satochi@y8.dion.ne.jp

内山さと子プロフィール

- ◆東京生まれ 東京女子大学文理学部史学科卒業
- ◆1995年～ 生活協同組合活動から、NPO法、食の安全、環境問題に取り組む
- ◆2001年～ 都議会政策調査会スタッフとして、子どもの化学物質対策、子育て・介護の複合課題を調査
- ◆2007年～ 武蔵野市議会議員 (無所属4期目)
- ◆UR緑町パークタウン団地在住